

## 《英語のスピーキングについて》

医学・医療で英語を活用する上では読解力がもっとも重要ですが、学会発表や質疑応答、外国人の患者さんへの医療面接、海外の医師との交流など、スピーキング力も当然必要となります。コミュニケーションにおいては、自分が言いたいことや相手に伝えないといけないことはどんどん自分から言わないと、相手に「何も考えていない」と思われる可能性があります。とにかく自分から積極的に言葉を発するようにしましょう。

話せるようになるために、第1に必要なことは、「たくさん聞いてリスニング力をつけること」です。相手の言っていることが聞き取れなければ、会話に入ることすらできません。できるだけ毎日、短い時間でもいいからこまめに多く英語を聞いて耳を慣らすようにしましょう。高価な教材を買うよりも無料の医学英語学習ツールを活用する（英語学習ツール参照）ことを勧めます。たくさん聞く（インプットする）ことで、誰でも確実にリスニング力がアップし、聞き取れるようになってきます。聞く際には、リスニング法や聞くものをいろいろ組み合わせるとよいでしょう。例えば、聞いた内容がざっくりとどんなことについて話していて、どうだと言っているかがわかるようにある程度流して聞く、内容をしっかり掴めるように集中して聞く、さらに細かく、何と言っているか書けるくらいに一言一句聞き取る、TOEFLなどのリスニング問題を解いてみる、など。また、同じものを繰り返し聞いて徐々に聞き取れる内容を増やすことも役に立ちますが、同じ教材ばかりでは飽きるので、ネット、ドラマや映画、YouTubeなどいろいろなものを聞くようにします。ドラマなどの場合は、日本語字幕つき、英語字幕つき、字幕なしなど組み合わせるのもお勧めです。

話せるようになるための第2のポイントは、頭で考えるだけでなく「声に出す」、つまり実際に英語の文章を口から出す（話してみる）練習をすることです。英語を話すための舌や口の筋肉や喉の動きは日本語とは多少異なりますが、リスニング同様、トレーニングさえすればある程度動くようになり、英語らしい音を作れるようになります。そのために、まずは音読をするとよいでしょう。音読は、いつでも誰でも好きなだけでできます。その際、「意味の切れ目が息の切れ目」なので、どこで区切って読むかを十分意識し、また強く読む母音（どこにストレスがあるかと、その母音の質）をしっかり意識しながら音読することが大事になります。早く話すことがいいわけでは決してありません。むしろ、ノンネイティブスピーカーが早口で流れるように話すのを聞き取るのは容易ではないことを覚えておいてください。次に教材やネット等を利用してリピート練習を繰り返し行うようにしましょう。その際、ただ漫然とリピートするのではなく、できるだけしっかり「音を聴いて真似る」ようにすれば、自ずと発音がよくなり、より通じやすくなります。これらと同時に並行で、一人英会話をしてみることもお勧めです。車の中や部屋など一人でいるときに、自分で話したい内容（テーマやトピック）を決め、相手を想定し、声に出して話してみるという練習を繰り返し行います。よく「外国人と英会話の練習をしたいのですが、どうしたらいいですか」と聞かれますが、無料で、（英会話練習だけが目的の）中身のない会話のために、都合に合わせていつでも相手をしてくれる外国人がいるわけがありません。それよりも、発音を意識した音読やリピート練習、一人英会話をたくさん行うことで、自然に英語コミュニケーション力が向上し、話せるようになってきます。また、国際交流センターのEvening Englishは、安価で楽しくネイティブ教員から会話を学べるのでお勧めです。

話せるようになるための第3のポイントは、「急がば回れ」で地道にたくさん読むことです。日本人に一番欠けていることの1つが語彙力とよく言われますが、語彙力は単語帳や語彙のための本ではなく、リーディングをたくさんすることで培われるものです。また、当然、リーディングやリス

ニング（＝インプット）を増やすと表現力もついてきます。英語に多く触れれば、文法力も自然についてきます。文法は、いわゆる学校の科目ではなく、自分の言いたいことをより正確に、確実に、相手に伝えるための有用なツールなので（いい発音もそうですが）、文法力があればあるほどスピーキング力も読解力も向上します。また、たくさんインプットすることで、どの動詞とどの名詞を組み合わせるといいかわかるようになり、さらに動詞句、形容詞句などのフレーズレベルの力、イディオムも身につきます。さらに進めば、どういった英語がナチュラルか「何となく」わかるようになってきます。それらすべてがよりコミュニケーション力の高い、つまりより通じやすいスピーキングにつながります。英語力を高める上で読解が重要であるのは間違いありません。

### 【実際のスピーキング（音読含む）の際のポイント】

- ✓内容語（動詞、名詞、形容詞、副詞など）、自分が強調したい重要な語はストレス（強勢）をつけ、大きな声でより明確に話す。特に固有名詞や数字の発音に注意して話す。
- ✓意味の切れ目＝息の切れ目なので、切る（息をつぐ）べきところで切り、切るべきでないところで切らない。基本は主部の後で切る、前置詞の前で切る、that 節などの前で切るなど。
- ✓ある程度「大きな声」で「ゆっくり目に」話す。ノンネイティブ（英語の母語話者でない人）が小声で早口で話しているのほど、聞き取りにくいものはない。早口は百害あって一利なしと覚えておく。
- ✓日本語の単語をむやみに英文の中に入れてない。意味を考えて英語で言う工夫をする。
- ✓医学用語も、声に出して発音できなければ、使えない。わからなければ辞書で発音を調べ、実際に声に出して覚えること。語彙力が高いとコミュニケーションがスムーズになる。
- ✓自分の言いたいことをできるだけきちんと相手に伝えたいという気持ちを持ち、通じさせるという強い意思、コミュニケーションを取ろうとする「意欲」を持って話す。

最後に…

英語が出来て得することはいくらでもあります、損をすることは一つもありません。英語で話すこと自体を「楽しみ」みましょう。実際、英語でコミュニケーションがとれると楽しいですし、視野も広がります！